

私のおばあちゃん

いわき市立植田中学校 2年 荒 菜月

私のおばあちゃんは、私の顔が分かりません。おばあちゃんは美味しいご飯を食べることが好きです。散歩すること、沢山寝ること遠くへ旅行に行くことも好きです。私と同じ好きなことを持つおばあちゃん。でもおばあちゃんは、目が見えません。おばあちゃんは小さい頃に片目の視力を失いました。そして私のお姉ちゃんが生まれるほんの少し前に糖尿病が原因でもう片方の目の視力も失ってしまいました。だからお姉ちゃんの顔も私の顔もおばあちゃんは見たことがありません。小さい頃は「目が見えないなんて大変だな」と簡単に考えてしていました。でも今なら見えないことがどれだけ辛いか怖いかが分かります。私はおばあちゃん家によく行くのでどんな生活をしているのか見ることが出来ます。おばあちゃんは私のためにトマトを切ってくれたり、お茶を出してくれたり、ご飯を作ってくれたりします。目が見えないのにも関わらず切ってくれたトマトのへたは一切ついてないし、おばあちゃんが作ってくれる温かいご飯はとても美味しいです。いつも明るく楽しそうに喋るおばあちゃんの写真は魅力的で素敵です。元気すぎて本当は目が見えているんじゃないかと会う度に思ってしまうほどおばあちゃんは私たちとなんら変わりなく生活しています。

おばあちゃんを見ていると芯の強い人だなと思います。目が見えない状態でも自分ができることは最後まで取り組むし、できないことがある場合は別のできることを探して行動に移すし、カッコいいです。そんな誠実なおばあちゃんを私は心から尊敬しています。おばあちゃんの中でどのような葛藤があったのか分からないけれど心配をかけないために今自分ができることを最大限やってくれているのかなと思います。おばあちゃんは野菜を切ったりすることはできますが毎食全てを作ることはできません。ですが、野菜を切るというのは当たり前前にできることではないです。私たち健常者でも切るといことは難しく手を切る恐れがあり、危険です。それなのにおばあちゃんはいつも慣れた手つきで包丁を扱っています。そう簡単にできないことを当たり前のようにやるおばあちゃんを見ていると凄いなといつも感心してしまいます。

皆さんは障がい者を差別したり拒否したりする人を見たり、聞いたりしたことがありますか。私はテレビで障がいのある娘さんが保育園で勝手に据え置き

されたというニュースを見て、とても不快に思いました。私が娘さんの立場だったら怖くて仕方ないと思うし、なんで私だけなのという気持ちになると思います。改善すべき点はいくつかあります。一つ目は障がい児を受け入れている保育園には十分な補助金をつけるということ、二つ目は県・市から園長へ障がい児を受け入れるよう指導すること、この二つです。これを実行すれば少しは改善されるのではと考えました。基本的人権はとても大切です。少し前までは基本的人権の重要性や必要性の意味が正直何も分からず、理解するのに精一杯でした。でも今はしっかり理解できています。ずっと何も分からなかった私がすぐに理解できたのはおばあちゃんのおかげです。その例を挙げるとするなら花火です。私はきれいで美しい花火を目に焼き付け、写真を撮ったりして楽しみます。おばあちゃんは花火の音を楽しみます。どちらにも違う良さがあり、どちらにも味わえないものがあります。このようにおばあちゃんのような障がい者にも楽しめる価値観があります。健常者、障がい者の両者が自分らしく生きられるのが基本的人権の尊重なんだと何気ない時間で良く理解できました。

これから私ができることは手助けを行うことだと思います。トイレの流すボタンを教えたり、料理の手伝いをしたり、階段の昇り降りを一緒にやったり、炊飯器のスイッチなど細かいことを手伝うのがおばあちゃんの役に立つんじゃないかと思います。私が他の人にされたらうれしいことをおばあちゃんに沢山してあげたいです。全盲の人の気持ちを完璧に理解するのは難しいけれど私が私なりに考えた助け方が少しでもおばあちゃんのためになればいいなと思います。そしておばあちゃんだけでなく荷物が多くて大変そうな人や電車に乗ったときに席を譲るなどをして周りをよく見て生活していきたいです。小学生の頃は点字ブロックの上を遊び感覚で歩いてしまっていました。今思うと、なんでこんなに非常識なことをしていたんだろうと以前の自分をばかばかしく思います。まだ中学生になっても点字ブロックの上を歩いたり、走っていたりする人をよく見かけます。悪気のない行動が人の迷惑になるということをこの私の作文で一人でも多く知ってもらえたらうれしいです。そして困っている人を見かけたら「なにか手伝うことはありますか」と聞いてみてください。その一言で人を笑顔にしたり信用されたり役に立ったりします。